

年報

2019 年度

筑波大学大学院人間総合科学研究科 看護科学専攻

目次

I. 看護科学専攻の組織等	1
1. 看護科学専攻の目的,教育目標	1
2. 看護科学専攻の沿革	3
3. 看護科学専攻の組織	5
4. 看護科学専攻の施設・設備	11
II. 教育活動	12
1. 教育内容及び方法	12
2. 自発的な教育活動	13
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	14
4. 大学院教務・専攻事務の支援体制	17
III. 研究活動	18
IV. 大学院生支援	48
V. 社会貢献と国際交流	51

I. 看護科学専攻の組織運営

1. 看護科学専攻の目的、教育目標

1) 看護科学専攻博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学専攻博士前期課程では、学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では科学的な根拠に基づいて看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を目指す学生および看護の実践能力および高度な専門性を有する看護の高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学専攻博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者・、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。博士前期課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、さらに次代に向けて必要となる新たな知識の創造と、技術開発の基礎研究者となる教育・研究方法などについて体系化できる力を備えようとする教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的な能力を修めた者で、実践と理論の架け橋となるための高度専門看護者・管理者、行政官を目指そうとする者を求めています。

2) 看護科学専攻博士前期課程の特色と教育目標

看護科学専攻博士前期課程では、教育目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護科学の領域で、社会的学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与できる研究を実践できるよう、以下の能力を育成

します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的な根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護実践における高度な専門的知識・技術・実践能力
- ③ 学際的な視点で看護を科学的に分析する能力
- ④ 国際水準の看護実践を志向できる能力

高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力

- ① 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ② 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ③ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ④ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑤ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

3)看護科学専攻博士後期課程の特色と教育目標

看護科学専攻博士後期課程では、教育目的を達成するために、筑波大学大学院学

則で規定する課程の目的を踏まえて、看護科学の領域において博士の学位に相応しいだけの新規性、独創性と十分な学術的価値のある学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤になる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力
- ⑤ 国際水準の研究能力

2. 看護科学専攻の沿革

1) 博士前期課程の沿革

平成 15 年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として 4 年制大学になりました。平成 18 年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成 19 年 4 月に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の 3 側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域で教育が始まりました。

看護においては人々の QOL の向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、平成 22 年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成 23 年度には「がん看護」「精神看護」、平成 24 年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極

的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。

また、平成 23 年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域に再編しました。

平成 26 年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の 4 分野において専門看護師教育課程(38 単位)の認定を受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)助産師養成教育を提供しています。

平成 29 年度には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム:①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。

令和元年度から 1 科目あたりの受講者数を増やし、学習の充実を図るため「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域をなくし、看護科学として 1 つの専門領域にしました。

令和元年度までに博士前期課程を修了する学生は 171 名となります。修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍し、成果をあげています。また 18 名の修了生が専門看護師試験に合格しています。

2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成 13 年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成 19 年 4 月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成 21 年 4 月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。

平成 26 年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で

地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

本専攻は平成 25 年度 3 月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。博士(看護科学)の授与は、1 名の論文博士を含め、令和元年度 3 月までに計 34 名となり、日本のさまざまな保健分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

3. 看護科学専攻の組織

1) 教務委員会

(1) 前期課程修了に係る論文審査実施に関する活動

- ① 令和 1 年度修士論文発表会の開催(令和 1 年 12 月 19 日)
- ② 修士論文審査実施に係る調整
- ③ 修士論文審査申請に関するガイダンス実施(令和 2 年 3 月 5 日)
- ④ 修士学位論文審査に係る書類の書式の改定

(2) 後期課程修了に係る論文審査の実施に関する活動

- ① 令和 1 年度博士学位論文予備審査発表会ならびに本審査発表会の開催(計 3 回)
- ② 博士学位論文審査申請に関するガイダンス実施(令和 2 年 3 月 5 日)
- ③ 博士学位論文審査実施に係る調整
- ④ 博士学位論文審査に係る書類の書式の改定

(3) (前期課程) 研究計画書審査実施に関する活動

- ① 研究計画書審査実施に係る調整
- ② 令和 1 年度研究計画書審査発表会の開催(4 月 25 日)

(4) (後期課程) 研究計画書審査・発表会の開催

- ① 研究計画書審査実施に係る調整
- ② 令和 1 年度研究計画書審査発表会の開催(計 3 回)

(5)カリキュラム管理

- ① シラバス(本年度、次年度)の管理、時間割の管理・作成
- ② インターンシップ・看護科学特別実習の実施状況の確認、報告書の管理
- ③ 大学院便覧の管理
- ④ 令和2年度 大学院スタンダード案の作成
- ⑤ 学群生、科目等履修生の選考方法等規程の確認
- ⑥ 大学院生の INFOSS 受講状況の管理
- ⑦ 「研究・授業等に関する個人情報の取り扱いに関する内規」改訂案の作成(実習に関する取扱いの見直し)
- ⑧ 授業評価の結果に対する取扱書案の作成
- ⑨ CNS(慢性看護)の変更申請の準備
- ⑩ 令和2年度オリンピック・パラリンピックの開催に対応した時割案の作成
- ⑪ 学位プログラム科目番号表及び科目英文表記案の作成
- ⑫ 看護科学演習Ⅱの実施方法の再検討
- ⑬ 家族看護CNS開講科目の不備に対する対応策の検討
- ⑭ 国際活動に関する自由科目(2科目)新規開講準備
- ⑮ 研究倫理特別講義の実施
- ⑯ 令和2年度シラバス案の作成

(6) 専門研究領域・指導体制

- ① 研究領域・指導教員届(M1,D1,D2)の確認

(7) 非常勤講師・ゲストスピーカー・兼任・協力教員の照会、および任用書類の検討

(8) 大学院の改組再編に係る書類作成

(9) 授業評価に基づいたカリキュラムの検討

<次年度への継続課題>

・看護科学学位プログラムの実質運営

2)入試委員会

令和元年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本専攻の入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。また、入学志願者数が増加するよう広報委員会と協力しながら活動することに務めた。入学試験の実施状況は以下の表のとおりである。

<令和元年度入学試験の実施状況>

博士前期課程

8月期入試 筆記試験 令和元年8月20日、口述試験 8月21日

2月期入試 筆記試験・口述試験 令和2年1月30日

			志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生 内合格者数
募集人員 (15名)	8月期 入試	一般	15	14	10	2
		社会人	0	0	0	0
	2月期 入試	一般	4	4	4	1
		社会人	1	1	0	0

博士後期課程

8月期入試 筆記試験・口述試験 令和元年8月20日

2月期入試 筆記試験・口述試験 令和2年1月30日

		志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生 内合格者数
募集人員 (8名)	8月期入試	8	8	7	1
	2月期入試	0	0	0	0

<その他の活動>

- ・令和 2 年度 大学院募集要項を学位プログラム用に改変
- ・留学を希望する外国人に対する積極的な面接の実施

<次年度に向けた課題>

博士前期課程、後期課程の受験者数の増加に向けて積極的な広報をおこない、本専攻のアドミッション・ポリシーに見合う志願者を継続的に集めることが課題である。特に博士後期課程では、研究者、教育者や高度看護実践者の育成を目的に、本学博士前期課程からの進学者を推奨するとともに、博士前期課程では看護学類生の進学者数が増加するよう、広報活動について検討する必要がある。

3) 広報・情報委員会

■今年度の活動目標

1. 看護科学専攻の受験希望者を増やすべく、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて広報を展開する。
2. 看護科学専攻関係者(授業担当教員および学生)の Web ページを通じての情報活用を支援する。

■活動状況

<看護科学専攻ホームページの更新>

掲載内容が最新になるように迅速な更新を心がけた。

<入試説明会の開催>

令和 2 年度入学生のための説明会を以下の通り開催した。

日時：令和元年 6 月 21 日(金)17:00～18:30

場所：健康医科学イノベーション棟 8 階講堂

参加者数：44 人(前年度 41 人)、アンケート回収 39 名(89%)

前期課程希望 34 人(前年度 30 人)

後期課程希望 3 人(前年度 1 人)

合計 37 人(無回答 2)(前年度 32 人)

今年度は入試説明会の告知を昨年度よりさらに 1 か月早い 4 月 4 日に HP に掲載した。昨年度と比較して参加者が微増した。内訳をみると、有職者が 10 名(25.6%、4 名減)に対して看護学類 3 年生が 13 名(33.3%)→6 名増、看護学類 4 年生が 6 名(15.4%)→2 名増となっていた。看護学類生の大学院への関心が高まっている一方で、この 3 年間で有職者の参加者が半減している。受験者数の増加に結び付けるために、有職者にとって魅力的な選択肢であることを発信していく必要があると考えられる。

<入試説明会参加者に対する調査の実施>

入試説明会参加者のうち、39 人に調査協力を得た(回収率 89%)。入試説明会は大変参考になった(62%:前年度 69%)、参考になった(33%:前年度 22%)との回答であり、参考にならなかったという回答は 0 であった。ポジティブな評価の割合は上昇しているので、次年度以降も同様のコンテンツを実施するのが望ましい。参考になった内容(重複回答)は、入試に関する説明(69%)、在校生メッセージ(62%)、研究領域紹介(62%)、助産師コースの説明(38%)、国際交流協定校の説明(28%)、長期履修制度の説明(13%)でおおむね均等に評価されていた。例年、受験生の関心が比較的高いのは在校生メッセージであり、昨年度と同様に助産養成コース・前期課程 1 年・後期課程 1 年各 10 分の紹介時間を確保した。入試説明会の情報入手方法はホームページから 49%と最も多かったものの割合としては半減しており、教員からの情報提供とメーリングリストでの後方の割合が 30%と高かった。指導教員の顔が見える口コミによる広報活動の重要性が高まっているのかもしれない。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

全体的に、年度当初の目標はおおむね達成され、見かけの成果も昨年度と同様に得られているが、受験生数の増加につながっていない。次年度の課題として次のような事柄が考えられる。

1. 従前データを取っていたアクセス解析を利用することができなくなり、ホームページ

に到達するまでの検索キーワードやアクセスも元に関するデータが得られなくなった。医学サーバ上で運用できるツールは制限されているが、何らかの方法が導入できないか検討する。実質的な成果につなげるべく、外部リンクの増加の機会を見つけて当サイトへたどり着く確率を上げる方策を今後も検討していく。

2. 看護学類の優秀な卒業生を確保し続けられるよう、内部学類生への勧誘と広報を今後強化していく。学外への発信は引き続き HP の充実をはかっていく。
3. 次年度も事前予告情報を早めに流していく。在学生確保の重要度は高いので、定期的に在学生のメーリングリストにも働きかけていく。

4)FD・自己点検評価委員会

本専攻における FD 活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。そのために海外の協定校との連携も深めながら、海外看護教員を招聘し、教育方法の改善に向けた FD コンサルテーション、研修会議等を実施してきた。

平成 29～30 年度には、は、高度看護実践看護者の育成と実践への起用、臨床と教育のコラボレーション、アクティブラーニングを取り入れた国際的交互性のある高度看護実践教育をキーワードとしたFDセミナーを開催し、専門看護師の育成や臨床看護の場との連携など、今後の教育の向上に向けた検討を行った。令和元年度には、本学との協定校との国際交流セミナーを開催し、両大学の教育・研究のコラボレーションの可能性について検討を進めた。

また、論文指導や学位審査に関して、教員の指導力を高めていけるようなセミナーを開催し、教員個人の能力を高めるとともに、教員間の共同認識をはかりながら、専攻としての教育力・研究指導力を高めるようにしている。

授業評価に関しては、全科目において実施し、学生からの評価を教員にフィードバックしている。また学生からの評価を元に、カリキュラムや授業内容の検討を行っている。

今後も、積極的に海外の提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるような FD 活動の企画運営を進めていく。

5)ICT・国際活動委員会

令和元年度は昨年に引き続き国際活動において活発な動きがある一年となった。まず、大学院生の国際的な学術活動支援と論文の生産性を向上させることを目的に7月初旬に国際学会の抄録募集時期に合わせて「英語抄録攻略法-How to write a winning abstract.」を開催し、若手教員や大学院生多数の参加を得た。約9名の大学院生がポスター発表や口述発表としてアクセプトされ、1月のタイ国での国際学会で発表する機会を得た。

また、台湾の国立成功大学との学術交流の発展のために令和2年の2月には成功大学から看護研究者を迎えて看護大学間、大学院と教員との学術交流をさらに推進するべくファカルティディベロップメントをFD委員会と共催した。

2019年度は3月に南インドアナ大学への研修派遣への支援等も行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセルとなった。状況が回復したら大学院生の海外での研修支援も継続していく予定である。

4. 看護科学専攻の施設・設備

1)施設設備委員会

施設・設備委員会は、4B棟、共同利用棟Bおよび健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営、会議室やセミナー室など専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標として活動している。

■本年度の施設・設備の整備状況

看護科学専攻大学院生および教員に関連する医学医療系の取り組みとして以下のものがあげられる。

- 1.医学エリア内の禁煙対策として、納品検収所の建物内に分煙キャビンが設置され、運用中である。
- 2.医学医療系棟3階にレディースルームが整備され、運用が始まった。
- 3.4B棟および4A棟周辺のレンガ舗装面の汚れが蓄積し学生の転倒事故が起きたため、看護科学専攻長からの依頼で高圧洗浄が実施された。

■今後の課題

- 1.附属病院と学系棟との間にセキュリテイドアの設置が検討されており、平成 30 年度に一部設置されるはずだったがまだ整備されていない。
- 2.附属病院B棟の耐震改修工事が始まり、2023年10月までかかる予定になっている。それに関連して、附属病院への動線が何度か制限・変更される見込みであるので注意を呼び掛けていく。
- 3.4D棟及び4C棟の耐用年数は20年程度のため、2024年、2026年には使用することが難しくなることが考えられ、引き続き検討されることになっている。
- 4.セミナー室など予約スペースの適正な利用を促進し、看護科学専攻の教育・研究環境が安全に保ち充実するよう努める。

Ⅱ. 教育活動

1. 教育内容及び方法

看護科学専攻博士前期課程では、医療技術の進歩と疾病構造の変化による多様な医療ニーズに応えられる幅広い知識を持った豊かな人間性と科学的思考を促進する科目を、専門基礎科目として設定している。また、学際的視野を広げ、研究的視点が拡充できるように大学院共通科目の履修を奨励している。看護科学の専門分野としては、ウィメンズヘルス看護学・助産学、小児・家族看護学、がん看護学、精神保健看護学、地域健康・公衆衛生看護学、国際地域ケア、国際看護学、療養調整看護学、の8つの専門研究領域に関する専門科目を編成している。さらに、高度専門職業人育成に関するカリキュラムとして、平成26年度から38単位よりなる専門看護師養成教育課程を4専門領域(がん看護、慢性看護、精神看護、家族看護)と58単位よりなる助産師教育課程をおいている。また、国際交流協定をもつ海外の大学との教育・研究に関する学術交流を活性化させ、グローバル水準での教育・研究活動に勤しめる環境を提供することに力を注いでいる。

看護科学専攻博士後期課程では、学融・学際的な発想を重視して、新しい看護科

学の創造に向けた取り組みが可能となるようなカリキュラム編成としている。学修を高めるための方策として、学問領域の狭義な枠組みを超えて、真の意味で実践と理論のバランスのとれた人材の育成と、科学的根拠に基づく理論の学修が深められ、実践科学としての看護学の発展につなげることが可能となるように科目を構成している。また、学術協定をもつ大学への学生の留学や教育・研究に関する学術交流の活性化により、国際水準の研究能力を培う環境を提供する。さらに、高度実践看護師養成のための科目も開設している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

2. 自発的な教育活動

<M2 勉強会>

【参加者】

阿部吉樹 大学院生(前期課程 2 年の参加希望者)

【目的】

- (1)論文を読み、研究デザインや統計的手法についての理解を深める。
- (2)ディスカッションを通して、論文クリティークの方法を理解する。
- (3)研究計画書の作成に向けて、疑問点を解消する。

【日時・内容】

開催日時は不定期。参加者で相談して決定。1 回 1.5～2 時間。

各回の担当者が自身の関心に応じて論文を 1 本選び、勉強会までに配布する。参加者は勉強会当日までに論文を読み、わからない点を整理したうえで、勉強会に参加する。勉強会当日は、担当者が論文の概要を説明したのち、論文クリティークを行う。その後、参加者の持ち寄った疑問点についてディスカッションを行う。ディスカッションを行っても解消しない疑問点については、教員が説明を加える。

各自が研究計画を進めたり、研究計画書を書いたりするうえで感じた疑問や不安を共有し、教員を含めたディスカッションを行うことで、疑問や不安の解消を図る。

学習の助けになる書籍、文献については適宜紹介する。

第 1 回(5 月 27 日) 論文抄読、クリティーク(1)

第 2 回(6 月 12 日) 論文抄読、クリティーク(2)

第 3 回(6 月 27 日) 論文抄読、クリティーク(3)

第 4 回(7 月 16 日) 論文抄読、クリティーク(4)

3.教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

＜本年度の学位論文のテーマ＞

看護科学専攻博士後期課程

佐藤 美央

「入院中の統合失調症者の心の理論とワーキングメモリへの介入プログラムの開発」

看護科学専攻前期課程

寺村 紗季

「日本の農村女性における閉経が循環器疾患リスク因子に及ぼす変化」

徳永 明日香

「産後 1 ヶ月の母親の心理状態に関連する要因の検討」

臼井 夕奈

「第 1 子誕生直後および産後 1 か月における妻および夫の思い」

小澤 理香子

「看護師のワーク・エンゲイジメントとレジリエンス、仕事の資源の関連」

工藤 あずさ

「看護職者の多次元共感とメタ認知・情報処理様式・感情制御の関連」

栗原 雛子

「The STARx-P 日本語版の開発—国内における保護者から見た慢性疾患患者の移行準備状況の実態—」

杉山 木比

「暴力をうけた女性を支援する施設で働く看護職の共感疲労に関する研究」

遠田 郁美

「高校生のメンタルヘルス関連要因と Social Networking Service の関係」

中田 えいみ

「The Roles of Nurses Employed as Medical Tourism Facilitators in Taiwan
(台湾において医療ツーリズムファシリテーターとして従事する看護師の役割)」

水谷 莉絵

「男子大学生における性的リスク対処意識とその関連要因」

<FD 活動実績と今後の課題>

令和元年度フレッシュマンセミナー(看護学類主催、看護科学専攻共催)

日時:6月2日(火)13:45~15:00 場所:イノベーション棟 8階

- 医療接遇 看護のプロフェッショナルに欠かせないマナー
- 講師:近藤和子先生(マザーリング&ライフマネジメント研究所)

国際交流セミナー(看護学類主催、看護科学専攻共催)

日時:2月12日(木)10:30~12:00 場所:共同利用棟 B 103

- 台湾と日本の看護交流 ~教育と研究のコラボレーション~
- Nursing Education in Japan
福澤先生
- Globalization of nursing and research projects in U of Tsukuba
Asako 先生
- Introduction of Nursing department in NCKU
国立成功大学医学部看護学科:Ko 先生、Hsu 先生
- Student exchanges between NCKU and U of Tsukuba
杉本先生
- Faculty exchanges between NCKU and U of Tsukuba
杉本先生

令和元年度 1 回 FD セミナー(主催)

日時 2 月 20 日(木)16:30~17:45 場所:共同利用棟 B 103

- 学位審査とは

- 講師:水野道代先生

本年度はFD委員会主催のセミナーを1回、共催のセミナーを2回開催した。

国際交流セミナーでは、国立成功大学医学部看護学科のKo先生とHsu先生をお迎えして、両国の看護教育の現況、両大学での教育・研究の紹介と、今後のコラボレーションの可能性について情報交換を行った。情報共有や課題の明確化に繋がり、有意義な会となった。また今後の教育・研究の交流の可能性について、検討できた。

また、FDセミナーでは、学位審査にテーマを絞り、学位審査とはどのようなものか、主査と副査の役割、委員会の役割、評価方法、基準について共通理解を図ること、また本専攻における審査の特徴、学位審査を受ける学生を指導する教員に必要な視点や指導力などについて理解することを目的とした。参加者からは、学位審査に関して共通認識ができたこと、修士論文と博士論文の違いが明確になったこと、指導あり方の示唆が得られたなどの評価を得た。

授業評価に関しては、本年度もほぼ全科目において実施しており、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。

4. 大学院教務・専攻事務の支援体制

看護科学専攻は、大学院教務ならびに看護科学専攻事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

<大学院教務の学生に関する主な支援業務>

1. 看護科学専攻の入学試験
2. 学位記授与式,新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)

5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生,研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係
11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

<看護科学専攻事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受取
4. 郵便物の配布
5. 授業教室の予約
6. 教室予約受付・管理
7. 令和元年度共同利用棟 B103・107・204・205・206・207
8. ロッカーキーの貸出・管理
9. 印刷機、備品の管理
10. 消耗品(トナー、インク、用紙)の交換
11. TA 任用、管理
12. メール配信:ほとんどが大学院教務,学生支援からの依頼による学生へメール配信
13. 各発表会、審査会サポート
14. 入試の準備・手伝い
15. 学位記授与式の準備・手伝い
16. 予算管理

Ⅲ. 研究活動

1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

A. ウィメンズヘルス看護学・助産学研究グループ

- 教授 岡山久代
- 准教授 川野亜津子
- 助教 金澤悠喜

□看護科学専攻 博士後期課程 5 年 龜山千里

<論文>

- 1) 龜山千里, 木下亜由美.(2019).小児看護専門看護師による,うつ病患者の産後再燃・再発予防.茨城県母性衛生学会誌,37,47-51.
- 2) 田村永子, 龜山千里.(2019).境界性パーソナリティ障害を有する母親と新生児の退院支援に難渋した 1 例.茨城県母性衛生学会誌,37,52-57.

<学会発表>

- 1) 龜山千里, 岡山久代.(2019). NICU 退院後の児童虐待の要因分析.日本小児保健研究講演集,78.東京.日本.
- 2) 龜山千里, 安井望, 鈴木悦子, 今村公俊, 神保教広, 堀哲夫.(2019). 自施設にて新生児期に手術を施行された児の母親が有する児童虐待リスク要因の検討.日本小児外科学会雑誌,55(3),福岡,日本.
- 3) 龜山千里.(2019). 自施設における早産極低出生体重児の体重増加と栄養管理の関連,日本母乳哺育学会雑誌, 69, 岡山,日本.
- 4) 龜山千里, 小室悦子.(2019). NICU 入院中の児童虐待アセスメント・ツール-A 病院版-項目の検討-医療的ケアを必要としない乳児に焦点を当てて-, 第 29 回日本新生児看護学会学術集会.鹿児島.日本.

- 5) 佐藤亜紀子, 亀山千里, 小室悦子.(2019).NICU 入院中の児童虐待アセスメント・ツール-A 病院版-項目の検討—医療的ケア児に焦点を当てて—. 第 29 回日本新生児看護学会学術集会.鹿児島.日本.
- 6) 亀山千里, 出地千種, 小室悦子.(2019).NICU における児童虐待アセスメント・ツール項目を用いた母乳栄養率低下に関連する要因の検討.日本小児看護学会第 29 回学術集会.北海道.日本.
- 7) 出地千種, 亀山千里, 小室悦子.(2019).自施設の NICU 看護師による母乳育児支援の実態と母乳栄養率の関連.日本小児看護学会第 29 回学術集会.北海道.日本.
- 8) 亀山千里.(2019).NICU における直接的なきょうだい面会における感染対策・安全対策の検討.第 7 回看護理工学会学術集会.沖縄.日本.
- 9) 亀山千里.(2019).早産児の非栄養的吸啜時に使用されるおしゃぶりの比較.第 7 回看護理工学会学術集会.沖縄.日本.

<社会活動>

- 1) 茨城県立中央看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師
- 1) 土浦看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師
- 2) 茨城県結城看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師
- 3) 土浦協同病院附属看護専門学校 3 年課程小児看護学 非常勤講師
- 4) 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻助産師教育課程 講師
- 5) 茨城キリスト教大学大学院 兼任講師
- 6) 茨城県看護協会 訪問看護支援事業訪問看護専門分野研修(小児・重症心身障害児)講師

<講演会・シンポジウム・研修会の講演>

- 1) 亀山千里.(2019).NICU におけるおしゃぶりの活用方法を考える—臨床の視点から— 第 29 回日本新生児看護学会学術集会ランチョンセミナー講師.

<公的な委員会>

- 1) 日本母乳哺育学会教育委員
- 2) 茨城県母性衛生学会幹事

□看護科学専攻 博士後期課程 5年 VASCONCELOS DOMINGUEZ
CUNHA.MILLEANNI

□看護科学専攻 博士後期課程 4年 青木真希子

<論文>

- 1) Hiroataka Aoki, Satoshi Suzuki, Makiko Aoki. (2019). Comparison of Gaze Patterns While Diagnosing Infant Epilepsies. *HCI International*. 35: 429-433.
- 2) 青木洋貴, 関俊太, 西間啓行, 鈴木聡, 青木真希子. (2019). 乳児のてんかん様動作に対する臨床推論時の知覚パターン—経験の異なる看護師・初学者の眼球運動の比較研究—. *人間工学*, 55, 200-211.

<学会発表>

- 1) 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永継博, 岡山久代. (2019). 成人女性の脳血流変化速度の特徴(第1報)—NIRSを用いた卵胞期・黄体期および月経前症候群の有無別による比較—. 第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 2) 岡山久代, 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永継博. (2019). 成人女性の脳血流変化速度の特徴(第2報)—NIRSと非接触型カメラによる卵胞期データの比較によるカメラの妥当性の検討—. 第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 3) 青木真希子, 鈴木聡, 青木洋貴. (2019). 注視パターンから見たてんかん様動作の異常判断プロセスにおける方略の特徴. 第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 4) Hiroataka Aoki, Satoshi Suzuki, Makiko Aoki. (2019). Comparison of Gaze Patterns While Diagnosing Infant Epilepsies. *HCI International 2019*. Orland. Florida. US.
- 5) Makiko Aoki, Masato Suzuki, Hisayo Okayama. (2020). Comparison of cerebral

blood during emotional stimuli in the presence or absence of premenstrual syndrome. 23rd East Asian of Nursing Scholars (EAFONS). Chiang Mai, Thailand.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 内藤紀代子

<論文>

- 1) Okayama H, Ninomiya S, Naito K, Endo Y, Morikawa S.(2019).Effects of wearing supportive underwear versus pelvic floor muscle training or no treatment in women with symptoms of stress urinary incontinence: an assessor-blinded randomized control trial. *Int Urogynecol J*, 30 (7): 1093-1099.
- 2) 内藤紀代子.(2019).滋賀県下の保育士等を対象とした血液媒介性感染の意識と対応の実態調査.びわこ学院大学びわこ学院大学短期大学部研究紀要, 11, 印刷中.
- 3) 内藤紀代子, 伊藤七海, 伊藤美咲, 村木いる香, 寺澤萌花.(2019).大学生グループによる地域でのライフスキル教育実施から見えた課題. びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部外部連携研究センター年報, 6, 印刷中.

<学会発表>

- 1) 内藤紀代子, 二宮早苗, 森川茂廣, 遠藤善裕, 岡山久代.(2019).骨盤底筋群の機能評価における PFM トレーナーと超音波診断装置の関連性の検討,第 7 回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 2) Kiyoko N, Chisato K, Shigehiro M, Hisayo O.(2020).Investigation on awareness and handling of blood-borne infectious diseases among nursery teachers in Japan.23rd East Asian forum of nursing scholars (EAFONS). Chiang Mai, Thailand.
- 3) 内藤紀代子.(2020). 教育現場における血液媒介性感染症の予防に対する意識調査. 第 50 回滋賀県公衆衛生学会. 滋賀. 日本.
- 4) 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永

継博, 岡山久代.(2019).成人女性の脳血流変化速度の特徴(第1報)—NIRSを用いた卵胞期・黄体期および月経前症候群の有無別による比較—.第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会.沖縄.日本.

- 5) 岡山久代, 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永継博.(2019).成人女性の脳血流変化速度の特徴(第2報)—NIRSと非接触型カメラによる卵胞期データの比較によるカメラの妥当性の検討—.第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会.沖縄.日本.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 岡山久代(分担者:松崎一葉, 青木真希子, 内藤紀代子). 2018~2021年度, 基盤研究C. 女性ホルモンの変化と高次脳機能の定量評価—脳血流計測カメラの臨床応用の可能性—.
- 2) 二宮早苗(分担者:岡山久代, 内藤紀代子, 森川茂廣, 遠藤善裕). 2017~2020年度, 基盤研究C. 骨盤底筋群に作用する姿勢の探索—指導しやすい新骨盤底筋トレーニングの確立に向けて.
- 3) 古川洋子(分担者:野田正人, 内藤紀代子, 板谷裕美). 2018~2022年度, 基盤研究C. 児童自立支援施設に併設された学校における性に関する健康教育プログラムの開発.

<共同研究・受託研究講演会・学会の開催>

- 1) 内藤紀代子. 2017~2020年度, 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」助成. 滋賀の若者の将来を描くプレコンセプションケアの開発.
- 2) 内藤紀代子. 2018~2020年度, 環びわ湖大学・地域コンソシアム助成. 第二期プレコンセプションケアの東近江市天秤プロジェクト.

<講演会・シンポジウム・研修会の講演>

- 1) 内藤紀代子.(2019). 布引運動公園スポーツ健康 Day での健康アドバイザー.
- 2) 内藤紀代子.(2019). 日本生体医工学会と日本看護理工学共催セミナー「リケジョ・リケダンのためのプレコンセプションケア～産みたいときに産めるためにはどうしたらいいか」.

い?～」講師.

- 3) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県立能登川高等学校キャリア形成支援事業プログラム.
「熱中症の対策」講師.
- 4) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県保育士キャリアアップ研修「保育所における感染症対策ガイドライン」講師.
- 5) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県保育士キャリアアップ研修「保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン」講師.
- 6) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県東近江市健康推進員協議会(八日市支部)での講演
「女性の健康と骨盤底筋」講師.
- 7) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県東近江市健康推進員協議会(永源寺支部)での講演
「女性の健康と骨盤底筋」講師.
- 8) 内藤紀代子. (2019). 守山市立北中学校での講演「ネット社会で生きる子ども達～
保護者のかかわり方について～」講師.
- 9) 内藤紀代子. (2019). 栗東市立治田小学校での講演「SNSと性問題」講師.
- 10) 内藤紀代子. (2019). 湖南市立石部南小学校PTAへの講演「6年生性教育(いのちの授業)」講師.
- 11) 内藤紀代子. (2019). 滋賀県立水口高等学校キャリア形成支援事業プログラム.
「子どもへの支援について」講師.
- 12) 内藤紀代子. (2019). 第24回人間と性教育研究協議会滋賀県 HAL サークル
& 滋賀県助産師会合同研修. 「思春期の性教育再考」講師.

<公開講座>

- 1) 内藤紀代子. (2019). 教員免許更新講習「教育現場で知っておきたい『病気とケガへの対応』と『若者の生きる力を損なう問題とレジリエンス』」講師.

<出張講義・出前講義>

- 1) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 東近江市立玉園中学校 全学年.
- 2) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル. 東近江市立朝桜中学校 2年生.
- 3) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀学園高等

学校 1 年生.

4) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立甲西
高等学校 2 年生.

5) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(性教育). 滋賀県立能登川高等学校 1 年生.

6) 内藤紀代子. (2019). 将来、健康に妊娠・出産・育児をするために. 滋賀県立聾話学
校 高等部 1.2.3 年生.

7) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立八幡
工業高等学校 全学年.

8) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 近江八幡市立
八幡東中学校 1 年生.

9) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立彦根
東高等学校 1 年生.

10) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 守山市立守山
北中学校 1 年生.

11) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立能登
川高等学校定時制 全学年.

12) 内藤紀代子. (2019). ライフスキルと性教育. 滋賀県立日野高等学校 1.3 年生.

13) 内藤紀代子. (2019). ライフスキル(自分の心身の健康を守る方法). 滋賀県立甲南
高等学校 3 年生.

14) 内藤紀代子. (2019). 将来、健康に妊娠・出産・育児するために. 滋賀県立日野高
等学校 3 年生.

15) 内藤紀代子. (2019). 性教育. 多賀町立多賀中学校 1 年生.

16) 内藤紀代子. (2019). 性に関する学習(いのち～互いに尊重し合う～). 守山市立守
山南中学校 1 年生.

<公的な委員会>

- 1) 看護理工学会評議員.
- 2) 滋賀県助産師会第三地区支部長
- 3) 滋賀県母性衛生学会誌編集委員.

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 青山真悠子

<学会発表>

- 1) 青山真悠子, 原田真友子, 松田怜夏, 菊池若菜, 古賀愛永, 岡山久代.(2019). ベルトレスでの胎児心拍計装着の可能性の検討. 第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 2) 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永継博, 岡山久代.(2019).成人女性の脳血流変化速度の特徴(第1報)—NIRSを用いた排卵期・黄体期および月経前症候群の有無別による比較—. 第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 3) 岡山久代, 青木真希子, 青山真悠子, 内藤紀代子, 今井俊輔, 安杖尚美, 有本聡, 是永継博.(2019).成人女性の脳血流変化速度の特徴(第2報)—NIRSと非接触型カメラによる排卵期データの比較によるカメラの妥当性の検討—. 第58回日本生体医工学会大会第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 4) Mayuko Aoyama, Hisayo Okayama. (2020). Literature Review of the Association Between Dietary Patterns and Perinatal Outcomes in Pregnant Asian Women, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars. Chiang Mai. Thailand.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 臼井 夕奈

<学会発表>

- 1) 臼井夕奈, 杉山木比, 金澤悠喜. (2019). 第1子誕生直後の夫婦間暴力発生予防に対する感情知性の適応性に関する文献検討. 第6回日本フォレンジック看護学会. 東京. 日本.
- 2) Yuna Usui, Atsuko Kawano, Yuki Kanazawa. (2020). The emotional change between spouses immediately after the birth of the first child: A literature review. The 6th International Nursing Reserch Conference of World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 杉山 木比

<学会発表>

- 1) 臼井夕奈, 杉山木比, 金澤悠喜. (2019). 第1子誕生直後の夫婦間暴力発生予防に関する感情知性の適応性に関する文献検討. 第6回日本フォレンジック看護学会学術集会, 東京, 日本.
- 2) Konami Sugiyama, Yuki Kanazawa, Atsuko Kawano. (2020). Literature review on factors related to nurse's compassion fatigue in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 徳永 明日香

<学会発表>

- 1) 徳永明日香, 川野亜津子. (2019). 産褥期における母親のメンタルヘルスとバイオマーカーの関連についての文献検討. 第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.
- 2) Asuka Tokunaga, Atsuko Kawano, Yuki Kanazawa. (2020). Literature review of current conditions of screening for postpartum depression in Japan. The 6th International Nursing Conference of World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 松田 怜夏

- 1) 青山真悠子, 原田真友子, 松田怜夏, 菊池若菜, 古賀愛永, 岡山久代.(2019). ベルトレスでの胎児心拍計装着の可能性の検討. 第7回看護理工学会学術集会. 沖縄. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 水谷 莉絵

<学会発表>

- 1) Rie Mizutani, Yuki Kanazawa, Atsuko Kawano. (2020). Examination of

literature regarding the current state of sexual behavior and awareness of male university students in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 岡野成美

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 柿野日菜

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 菊池若奈

<学会発表>

- 1) 菊池若奈, 岡山久代. (2019). 分娩監視装置着用時の快適性に関する工夫や注意点の文献検討. 第6回日本フォレンジック看護学会. 東京. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 寺澤瑛利子

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 和田秋花

□研究生 所恭子

<社会活動>

- 1) NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会理事(副代表)
- 2) 日立市医療連絡協議会「いのちの教育」(中学生対象)専門委員
- 3) 日立市医療連絡協議会「ライフプラン教育」(高校生対象)専門委員

B. 発達支援看護学研究グループ

■准教授 涌水理恵

■助教 小澤典子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 山口慶子

<学会発表>

- 1) Yamaguchi,Keiko., Wakimizu, Rie., Kubota, Mitsuru. (2018) Parental difficulties in daily life and anxiety about raising their child with inborn errors of metabolism who need the diet therapy. Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism. (SSIEM 2018) (Poster No.083) 4th September, Athens, Greece.
- 2) 山口慶子, 涌水理恵, 窪田満.(2018) フェニルケトン尿症患者の疾患特異的 QOL 尺度日本語版の開発ー第 1 報ー. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会 第 16 回アジア先天代謝異常症シンポジウム. アミノ酸代謝異常症 1 (Poster No.52).
- 3) 山口慶子, 涌水理恵, 窪田満.(2018) 我が国におけるフェニルケトン尿症患者 14 名の健康関連 QOL の実態. 第 65 回日本小児保健協会学術集会 77 巻講演集 (一般演題 02-022).
- 4) 山口慶子, 涌水理恵, 窪田満.(2018) 食事療法を受ける先天代謝異常症児 36 名の健康関連 QOL の実態. 第 65 回日本小児保健協会学術集会 77 巻講演集 (一般演題 02-023).
- 5) 山口慶子, 涌水理恵, 栗原雛子, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美.(2018) 特別支援学校に通う重症心身障がい児の主たる養育者が抱く療育支援ニーズ. 第 38 回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 059-2).
- 6) 山口慶子, 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 佐藤奈保, 松澤明美, 岸野美由紀, 佐々木実輝子, 秋本和宏, 齋藤沙織. (2018) 在宅重症心身障害児家族の家族エンパワメントの関連要因ー学童期と思春期に焦点を当ててー. 第 28 回日本小児看護学会学術集会 講演集. (一般演題 0-72).
- 7) Yamaguchi,Keiko.,Wakimizu,Rie.,Kuwahara,Hinako. (2018) Family Function perceived by Primary Caregivers raising a Child with Severe Motor and Intellectual Disabilities at home in Japan. Tsukuba global science week 2018 Student Presentations (Medical and Life Sciences) 20th September. 0-9.
- 8) Wakimizu, Rie., Yamaguchi, Keiko., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Iwata, Naoko., Kishino, Miyuki.(2019) Family Empowerment of families raising children with severe motor and intellectual disabilities in

- special schools for physically handicapped children in Japan. EAFONS 22nd, 17th -18th January (Poster No.2D15)
- 9) 栗原雛子, 山口慶子, 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美.(2018) 特別支援学校に通う重症心身障がい児の主たる養育者の配偶者が抱く療育支援ニーズ. 第38回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 059-3).
 - 10) Kuwahara, Hinako., Yamaguchi, Keiko., Wakimizu, Rie. (2019) Support Needs of Primary Caregivers and Their Spouses in Caring for Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID). EAFONS 22nd, 17th -18th January (Poster No.2D17).
 - 11) Kuwahara, Hinako., Akimoto, Kazuhiro., Saito, Saori., Yamaguchi, Keiko., Wakimizu, Rie.(2018) The Effects of Siblings of children with severe motor and intellectual disabilities on Family Empowerment Factors. TGSW, 20th - 21st September, Oral 0-35.
 - 12) 山口慶子, 涌水理恵, 黒木春郎.(2019)オンライン診療を利用した保護者が感じた対面診療との違い. 第66回日本小児保健協会学術集会 78巻講演集(一般演題 01-045).
 - 13) Kuwahara, Hinako., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Regional Comparison of Family Empowerment in Japan.” EAFONS 23rd. Chiang Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.
 - 14) Satoe Iki., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Utilization of Social Capital by families with Severely Disabled Children:Results from a National Survey in Japan.” EAFONS 23rd. Chiang Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.
 - 15) Goto, Ayumi., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Burden and available support for primary caregivers of children with severe motor and intellectual disabilities in Japan:A Regional comparative analysis” EAFONS 23rd. Chiang

Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.

<論文>

- 1) 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木実輝子.(2018) 在宅重症心身障害児の家族エンパワメントに関する実証的モデルの構築. 小児保健研究. 77(5):423-432.
- 2) 栗原雛子, 山口慶子, 涌水理恵.(2019)在宅生活を送る重症心身障害児の養育者が抱く療育支援ニーズの実態. 日本重症心身障害学会雑誌. 44(3): 519-527.

<テーマセッション>

- 1) 藤岡寛, 海野潔美, 市川睦, 涌水理恵, 岸野美由紀, 西垣佳織, 松澤明美, 山口慶子, 秋本和宏, 齋藤沙織. (2018). 障がい児を養育する家族全体への看護支援: 各家族員へのアプローチ. 日本小児看護学会第 28 回学術集会(テーマセッション 19)

<出張講義>

- 1) 水戸医療センター附属桜の郷看護学校 専門分野Ⅱ 小児看護学:健康障害のある子どもの看護(症状別)非常勤講師

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 栗原雛子

<学会発表>

- 1) Kuwahara, Hinako., Akimoto, Kazuhiro., Saito, Saori., Yamaguchi, Keiko., Wakimizu, Rie.(2018) The Effects of Siblings of children with severe motor and intellectual disabilities on Family Empowerment Factors. TGSW, 20th - 21st September, Oral 0-35.
- 2) 栗原雛子, 山口慶子, 涌水理恵, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美.(2018) 特別支援学校に通う重症心身障がい児の主たる養育者の配偶者が抱く療育支援ニーズ. 第 38 回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 059-3).

- 3) Kuwahara, Hinako., Yamaguchi, Keiko., Wakimizu, Rie. (2019) Support Needs of Primary Caregivers and Their Spouses in Caring for Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID). EAFONS 22nd, 17th -18th January (Poster 2D17).
- 4) 栞原雛子. 涌水理恵. 黒木春郎.(2019)小児医療現場における患者・家族からの暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせの実態と対応. 第 66 回日本小児保健協会学術集会 78 巻講演集(一般演題 01-021).
- 5) Kuwahara, Hinako., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Regional Comparison of Family Empowerment in Japan.” EAFONS 23rd. Chiang Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.
- 6) Kuwahara, Hinako., Wakimizu, Rie. “Trends in studies on healthcare transition in Japan and overseas.” WANS, Osaka, Japan. 28-29th February. 2020.
- 7) Yamaguchi,Keiko., Wakimizu, Rie., Kuwahara, Hinako. (2018) Family Function perceived by Primary Caregivers raising a Child with Severe Motor and Intellectual Disabilities at home in Japan. Tsukuba global science week 2018 Student Presentations (Medical and Life Sciences) 20th September. 0-9.
- 8) 山口慶子, 涌水理恵, 栞原雛子, 藤岡寛, 西垣佳織, 松澤明美.(2018) 特別支援学校に通う重症心身障がい児の主たる養育者が抱く療育支援ニーズ. 第 38 回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 059-2).
- 9) 後藤あゆみ, 栞原雛子, 涌水理恵.(2019) 小児医療現場での患者・家族からの暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせ被害への医療従事者の提案する対応策. 第 39 回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 025-2).
- 10) 壹岐聡恵, 栞原雛子, 涌水理恵.(2019) 小児医療現場における患者・家族からの暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせへの対応の現状 第 39 回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 025-01).

< 論文 >

- 1) 栞原雛子, 山口慶子, 涌水理恵.(2019)在宅生活を送る重症心身障害児の養育者が抱く療育支援ニーズの実態. 日本重症心身障害学会雑誌. 44(3): 519-527.
- 2) 涌水理恵, 三木明子, 齋藤誠, 大戸達之, 福島敬, 今井博則, 前野哲博, 栞原雛子, 小山慎一, 黒木春郎.(2019)小児医療現場における患者・家族からの暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせの実態と対策. 外来小児科. 22(4): 452-461.

< 受賞 >

- 1) 第66回(2019年度)小児保健協会学術集会 若手奨励賞

□看護科学専攻 博士前期課程1年 壹岐聡恵

<学会発表>

- 1) 壹岐聡恵, 栞原雛子, 涌水理恵.(2019)小児医療現場における患者・家族からの暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせへの対応の現状 第39回日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 025-01).
- 2) Satoe Iki., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Utilization of Social Capital by families with Severely Disabled Children:Results from a National Survey in Japan.” EAFONS 23rd. Chiang Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.

<交流集会>

- 1) 藤岡寛, 佐藤伊織, 涌水理恵, 海野潔美, 柿崎靖子, 宮本まり子, 西垣佳織, 松澤明美, 壹岐聡恵, 後藤あゆみ. (2019). 障害児のきょうだいへの支援—知見の統合をはかり、具体的方略を探る—. 日本家族看護学会第26回学術集会(交流集会4)

□看護科学専攻 博士前期課程1年 後藤あゆみ

<学会発表>

- 1). 後藤あゆみ, 栞原雛子, 涌水理恵.(2019)小児医療現場での患者・家族からの

暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせ被害への医療従事者の提案する対応策. 第 39 回
日本看護科学学会学術集会講演集(一般演題 025-2).

- 2). Goto, Ayumi., Fujioka, Hiroshi., Nishigaki, Kaori., Matsuzawa, Akemi., Yamaguchi, Keiko., Sasaki, Mikiko., Wakimizu, Rie. “Burden and available support for primary caregivers of children with severe motor and intellectual disabilities in Japan: A Regional comparative analysis” EAFONS 23rd. Chiang Mai, Thailand. 9-11th January. 2020.

<交流集会>

- 1). 藤岡寛, 佐藤伊織, 涌水理恵, 海野潔美, 柿崎靖子, 宮本まり子, 西垣佳織, 松澤明美, 壹岐聡恵, 後藤あゆみ.(2019) 障害児のきょうだいへの支援—知見の統合をはかり、具体的方略を探る—. 日本家族看護学会第 26 回学術集会講演集 (交流集会 4)

C. がん看護・緩和ケア研究グループ

- 教授 水野道代
■助教 牟田理恵子
■助教 山下美智代

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 宗澤(根本)紀子

<論文>

Mizuno, M. Munezawa, N. Yamashita, M. Sasahara, T. Mayers, T. Park, C. Ferrans, C.(2020) . Reliability and Validity of the Japanese Version of the Quality of Life Index for Patients with Cancer. *Research in Nursing & Health*, 2020 Jan 1-10. DOI: 10.1002/nur.22011

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 Umami Pratiwi Rimayanti

<学会発表>

- 1) Umami Pratiwi Rimayanti, Rieko Muta, Rieko Kishi Fukuzawa, Michiyo Mizuno. The Ferrans and Powers Quality of Life Index: Adaptation and Validation Study of the Indonesian Version “The 6th International Conference of World Academy of Nursing Science”, 28–29 February 2020, Osaka, Japan
- 2) Umami Pratiwi Rimayanti, Rieko Muta, Rieko Kishi Fukuzawa, Michiyo Mizuno. Enhancing the Cultural Appropriateness and the Accuracy of Quality of Life Index for Indonesian Cancer patients through Cognitive Interviews “International Conference on Cancer Nursing 2020” 29 March–1 April 2020, London, UK.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 量倫子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 曾冬艶

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 銭谷美咲

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 丸山直美

D. 精神保健看護学研究グループ

■教授 森千鶴

■助教 菅谷智一

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 石崎実

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 佐藤美央

<学会発表>

- 1) 佐藤美央. (2019). 統合失調症者当事者向け心理教育プログラムの改変, 日本精神保健看護学会第29回学術集会, 愛知, 日本.
- 2) Mio Sato, Yusuke Nisina, Masamitsu Kannekubo, Ikuhiro Harada, Ryo Imai,

Kazuya Mori, Syogo Matsuura, Yuta Yanagisawa. (2019). Difficulties of psychoeducation group program for in-patients with schizophrenia in acute psychiatric ward, Sigma' s 30th International Nursing Research Congress, Calgary, Canada.

- 3) 佐藤美央、松浦彰護、坂東美千代、中谷章子。(2019)。看護大学生のSNS利用と対人コミュニケーションの関係, 第 13 回看護教育研究学会学術集会, 東京, 日本。
- 4) 松浦彰護、坂東美千代、佐藤美央、中谷章子。(2019)。看護大学生のインターネット行動と居場所感の特徴, 第 13 回看護教育研究学会学術集会, 東京, 日本。

<社会活動>

- 1) 日本心理教育・家族教室ネットワーク認定標準版家族心理教育インストラクター
- 2) 日本心理教育・家族教室ネットワーク第 24 回研究集会関東大会実行委員
- 3) 千葉災害派遣精神医療チーム(DPAT)隊員
- 4) 第 38 回千葉県看護研究学会演題評価

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 近藤千春

□看護科学専攻 博士後期課程 2 年 田野将尊

<論文>

- 1) 田野将尊, 森千鶴。(2019)。統合失調症者の日本における「地域生活」の概念分析。看護教育研究学会誌, 看護教育研究学会誌 11(1), 3-14.
- 2) 中村裕美, 高橋幸, 福井彩水, 田野将尊, 伊藤桂子, 田中留伊。(2019)。発達障害およびその疑いのある学生に対する看護系大学教員の関わり方の現状と支援のあり方。看護教育研究学会誌 11(1), 47-55.

<書籍>

- 1) 田中留伊 監修 村松仁, 田野将尊, 中村裕美, 菅原裕美, 小川賀恵。(2019)。

看護師国家試験対策 2020年第94回～108回看護師国家試験問題収録 解いて、わかる！覚えて合格！精神看護学問題集，ピラールプレス，東京。

<学会発表>

- 1) 西村基記，田野将尊，竹内朋子。(2019). ICUにおける患者の主観的疼痛評価と新人看護師の客観的疼痛評価の相関. 第15回日本クリティカルケア看護学会学術集会，別府，日本.
- 2) 滝澤夕妃，田野将尊，小貫亜希子，畠山恵美。(2019). 認知症勉強会の実施による透析室スタッフのケアと態度の変化. 第22回日本腎不全看護学会学術集会，札幌，日本.
- 3) 田野将尊，小川賀恵，村松仁。(2019). 訪問看護師が認識する精神科救急・急性期病棟に必要な地域生活を見据えた看護の特徴. 第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，日本.
- 4) 浅田道幸，田野将尊，竹内朋子。(2019). 看護ケアによるN95微粒子マスクのフィットファクターの推移. 第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，日本.
- 5) 加瀬亜希子，岡村眞喜子，石橋咲子，澁澤盛子，朝澤恭子，竹内朋子，岩本郁子，高橋智子，酒一夫，玄順烈，田野将尊，長島真由美，小嶋奈都子。(2019). 看護技術の向上を目指した実習指導者と大学教員の連携会議の取り組み. 第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，日本.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 田野将尊. 精神科救急・急性期病棟看護師のための地域生活の視点を持った看護プロトコルの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金. 若手研究. 2019年度-2021年度

<社会活動>

- 1) 明星大学人文学部福祉実践学科 非常勤講師
- 2) 医療法人埼玉会埼玉草加病院 非常勤看護師(リエゾンアドバイザー)
- 3) 第44回日本精神科看護学術集会ワークショップ 講師「精神看護学実習における臨地実習指導者と教員の連携を考える」2019年6月21日/22日/23日. 長崎.

<その他>

- 1) 田野将尊. (2019). メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解説作成
- 2) 田野将尊. (2019). メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解説作成
- 3) 田野将尊. (2019). メディカコンクール 第 109 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解説作成

□看護科学専攻 博士後期課程 2 年 佐藤佑香

<学会発表>

- 1) 佐藤佑香、菅谷智一、森千鶴：大学生のインターネット使用状況と依存傾向の実態，第 18 回日本アディクション看護学会学術集会，2019 年 6 月，東京。
- 2) Yuka SATO, Tomokazu SUGAYA, Chizuru MORI: A Concept Analysis of Nurse's Competency in Japan, Sigma Theta Tau International Honor Society 30th International Nursing Research Congress, July 2019, Calgary.

<著書>

- 1) 佐藤佑香(2019).目標Ⅳ 19 運動機能障害のある患者の看護. 佐藤みつ子監修. 看護師国家試験対策 2020 年 解いて、わかる！覚えて合格！成人看護学 問題集. 261-306, ピラールプレス. 東京.

□看護科学専攻 博士後期課程 1 年 大出順

<論文>

- 1) 大出順(2020).看護師の倫理的行動尺度の高次因子分析モデルと階層的因子分析モデルの検討, 帝京科学大学紀要. 2020, (16).

<社会活動>

- 1) 日本看護倫理学会誌 論文査読担当

<その他>

- 1) 大出順 (2019). 放送大学 看護師国家試験支援ツール作成 国家試験過去問

解説作成

□看護科学専攻 博士後期課程1年 林依薇

<学会発表>

- 1) 林依薇, 菅谷智一, 森千鶴. (2019). 中国人留学生の飲酒行動の特徴. 第18回日本アディクション看護学会学術集会. 東京. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程2年 小澤理香子

□看護科学専攻 博士前期課程2年 工藤あずさ

<学会発表>

- 1) 工藤あずさ, 菅原裕美, 菅谷智一, 森千鶴. (2019). 統合失調症者の色彩の認知に関する研究, 日本精神保健看護学会第29回学術集会, 愛知, 日本.
- 2) Azusa KUDO, Hiromi SUGAWARA, Tomokazu SUGAYA, Chizuru MORI. (2019). The Characteristic of Schizophrenia's Color Cognition, Sigma Theta Tau International Honor Society 30th International Nursing Research Congress, Calgary, Canada.

□看護科学専攻 博士前期課程2年 高町倫子

□看護科学専攻 博士前期課程2年 遠田郁美

<社会活動>

- 1) つくば看護専門学校 非常勤講師

□看護科学専攻 博士前期課程1年 氏家寿美子

□看護科学専攻 博士前期課程1年 小川光江

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 田端一成

<論文>

- 1) 田端一成, 菅谷智一, 中谷章子, 森千鶴. (2019) 統合失調症者へのストレングスモデル活用の有用性. 看護教育研究学会誌. 11(2). 37-44.

<学会発表>

- 1) 田端一成, 中谷章子, 菅谷 智一, 森 千鶴. (2019) 統合失調症者へストレングスモデルを活用した一事例. 第13回看護教育研究学会学術集会. 東京. 日本.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 宮崎真理子

<論文>

- 1) 宮崎真理子, 森千鶴. (2019). 総合病院に勤務する看護師の精神障害者との社会的距離と接触体験: 統合失調症・アルコール依存症・躁鬱病のイメージを比較して, 看護教育研究学会誌, 11(1), 37-45.

E. 国際発達ケア:エンパワメント科学研究室

■教授 安梅勅江

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 厚澤博美

<学会発表>

- 1) 厚澤博美, 田中笑子, 渡邊久実, 安梅勅江. (2019). 新人看護師の精神的健康維持を目指した支援に関する質的研究. 第78回日本公衆衛生学会総会. (一般演題 P-2003-6), 高知, 日本.
- 2) Hiromi Atsuzawa, Emiko Tanaka, Kumi Watanabe, Tokie Anme. (2019). Decision-making and student motivation for careers in nursing: a pre-employment focus group interview IAEVG 2019 International Conference. (Poster 13), Brano, Slovak Republic.
- 3) 澤田優子, 田中笑子, 冨崎悦子, 渡邊多恵子, 河西敏幸, 渡邊久実, 厚澤博美, 恩田陽子, 丹羽一絵, 奥村咲, 奥村理加, 伊藤澄雄, 安梅勅江. (2019). 地

域子育て支援の実践と評価 第三報. 第 78 回日本公衆衛生学会総会. (一般演題 P-0507-6), 高知, 日本.

- 4) 田中笑子, 富崎悦子, 澤田優子, 渡邊多恵子, 河西敏幸, 渡邊久実, 厚澤博美, 恩田陽子, 丹羽一絵, 奥村咲, 伊藤澄雄, 奥村理加, 安梅勅江. (2019). 地域子育て支援の実践と評価 第四報 育児環境変化に着目して. 第 78 回日本公衆衛生学会総会. (一般演題 P-0507-7), 高知, 日本.

F. 地域健康・公衆衛生看護学研究グループ

- 教授 山海知子
- 准教授 大宮朋子
- 助教 出口奈緒子

□看護科学専攻博士 前期課程 2 年 寺村紗季

<学会発表>

- 1) 寺村紗季, 山海知子, 山岸良匡, 梅澤光政, 木原朋美. 今野弘規. 崔仁哲. 村木功, 清水悠路, 岡田武夫, 木山昌彦, 磯博康. (2020). 日本人女性における閉経が循環器疾患リスク因子に及ぼす影響. 第 30 回日本疫学会学術総会, ポスター, 京都, 日本.

□看護科学専攻博士 前期課程 1 年 大島優海

□看護科学専攻博士 前期課程 1 年 辻志保里

G. 療養調整看護学研究グループ

- 教授 日高紀久江
- 准教授 浅野美礼
- 准教授 柴山大賀
- 助教 阿部吉樹
- 助教 萩野谷浩美

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 工藤順子

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 工藤理恵

<論文>

- 1) 工藤理恵, 日高紀久江, 柴山大賀. (2019). 日本における2型糖尿病患者の「自己管理」の概念分析. 看護教育研究学会誌, 11(2), 3-13.

<交流集会>

- 1) 工藤理恵, 桑村由美, 澄川真珠子, 渡辺忍, 柴山大賀. (2019). 交流集会 4 糖尿病患者の歯周病管理について考えよう～外来で看護師にできること～. 第24回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、千葉、日本.

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 前田昌哉

<交流集会>

- 1) 前田昌哉, 阿部吉樹, 柴山大賀, 浅野美礼, 石井一弘, 玉岡晃, 日高紀久江. (2019). 外来通院中の多発性硬化症及び視神経脊髄炎患者が感じる全身倦怠感(だるさ)の実態と全身倦怠感(だるさ)に関連する要因. 第24回日本難病看護学会学術集会, 山形県立保健医療大学, 口演, 山形, 日本.
- 2) 大内真依, 森愛美, 前田昌哉, 阿部吉樹, 山田緑. (2019). 入院中の小児がサークルベッド等から転落することを防止するために実施した取り組みの内容及び結果の報告, 第14回医療の質・安全学会学術集会, 国立京都国際会館, ポスター, 京都, 日本.

H. 国際看護学研究グループ

- 教授 竹熊カツマタ麻子
- 助教 杉本敬子
- 助教 トゴバタラ・ガンチメゲ
- 助教 福澤利江子

■看護科学専攻 博士後期課程 2年 籠島 政江

〈学会発表〉

- 1) 籠島政江.(2019). Evidence-Based Practice in Nursing education: A literature review. The 5th International conference of Nursing History and Development. Poster. Ulaanbaatar. Mongolia. (査読なし)

〈講演〉

- 1) 籠島政江.(2019). Organizing and management to perform of the nursing divisional commander. Clinical conference at 1 st.General Hospital. Ulaanbaatar. Mongolia.
- 2) 籠島政江.(2019). Organizing and management to perform of the nursing divisional commander. Nalaikh District Hospital. Ulaanbaatar. Mongolia.

〈専門誌寄稿〉

- 1) 籠島政江.(2019). マネジメントの基本：PDCA サイクルを部署スタッフに浸透させるために. ナースマネジャー.21(6).

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 Munguntuul Enkhbat

〈学会発表〉

- 1) Munguntuul Enkhbat. (2019). Current situation of handwashing of elementary school children: Sukhbaatar district area. The 5th International conference of Nursing History and Development. Poster. Ulaanbaatar, Mongolia. (査読あり)

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 Tsetsegmaa Parch

〈学会発表〉

- 1) Tsetsegmaa P, Ganchimeg T, Rieko K.F, Keiko S, Asako T.K. Respectful maternity care. The 5th International conference of Nursing History and Development. Poster. Ulaanbaatar, Mongolia. (査読あり)
- 2) Sukhbat S, Ganchimeg T, Tsetsegmaa P, Fukuzawa K.R, Badamkhand Ch,

Naranbaatar N. Women`s childbirth experience survey: Postpartum depression in Mongolia. The 5th International conference of Nursing History and Development. Ulaanbaatar, Mongolia.

<投稿論文>

- 1) Oyunchimeg Erdenee, Amartuvshin Tumenjargal, Tsetsegmaa Parchaa, Chiho Yamazaki, Hiroshi Koyama. Distribution of midwives in Mongolia: A secondary data analysis. Midwifery. (投稿中)

<翻訳>

- 1) Ganchimeg T, Tsetsegmaa P, Amartuvshin T, Oyunchimeg E, Ulambayar Sh. WHO recommendations: Intrapartum care for a positive childbirth experience, Mongolian translation of executive summary.

□看護科学専攻 博士後期課程1年 金城 一平

<学会発表>

- 1) 金城一平. (2019). 手術室看護師のストレスの実態－病院特性および器械出し業務、外回り業務を比較して－. 第33回日本手術看護学会年次大会.口演. 岡山.日本. (査読あり)

□看護科学専攻 博士後期課程1年 内藤優子

<学会発表>

- 1) Yuko Takahashi Naito. (2020). Respectful Maternity Care during childbirth: A Concept Analysis. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars. Oral. Chiang Mai. Thailand. (査読あり)

<講演>

- 1) 高橋優子. (2019). 国際協力×助産. じょさんしサミット 2019. 神戸. 日本.
- 2) 高橋優子. (2020). 世界からみた「産婦を尊重したケア」の今日的意義. シンポジウム「今世界が注目している出産ケア」.第34回日本助産学会学術集会. 新潟.日本.

<専門誌寄稿>

- 1) 高橋優子.(2019). ブラジル「光のプロジェクト」の今. 助産雑誌. 第73巻
第4号.医学書院.

<翻訳>

- 1) 福澤利江子, 杉本敬子, 高橋優子, et al. WHO recommendations: Intrapartum
care for a positive childbirth experience. 日本語訳.

<競争的資金>

- 1) 平成31年度 筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）海外武者
修行支援プログラム助成採択
- 2) 平成31年度 筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）海外学会
等参加支援プログラム助成採択
- 3) 令和元年度 大学院生を対象とした人間総合科学研究科武者修行型学修派
遣支援助成採択
- 4) 平成31年度 日本看護協会 小倉一春大学院教育（国際看護）奨学金採択

<社会活動>

- 1) JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）ネパール「ポカラ市北部に
おける住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修講師. 2019年7月. 駒ヶ根.日本.
- 2) プミセハット国際助産院国際研修ファシリテーター. 2019年4月、2020年
2月. Bali. Indonesia.

□看護科学専攻 博士後期課程1年 中島久美子

<学会発表>

- 1) 中島久美子.(2020). Nursing practice for cancer patients and their families at
outpatient departments: A qualitative descriptive research. The 23rd East
Asian Forum of Nursing Scholars. Poster. Chiang Mai. Thailand. (査読あり)

<講演>

- 1) 中島久美子.(2019). Nursing practice and system of the outpatient department

at Japanese general hospitals. 日本の総合病院における外来看護実践とシス
テム. National Cancer Center of Mongolia. Ulaanbaatar. Mongolia.

<競争的資金>

- 1) 平成 31 年度 筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）海外武者
修行支援助成採択

□看護科学専攻 博士後期課程 1 年 宮原 めぐみ

<学会発表>

- 1) 宮原めぐみ. (2020). Advance Care Planning (ACP) in Japan: A Concept
Analysis. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars. Poster. Chiang Mai.
Thailand. (査読あり)

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 中田 えいみ

<論文投稿>

- 1) 中田えいみ, 杉本敬子. (2019). 国立台湾大学の国際医療センターにおける
医療研修報告. 日本渡航医学会誌. 東京. 日本. (査読中)

<学会発表>

- 1) 中田えいみ, 杉本敬子. (2019). 国立台湾大学の国際医療センターにおける
医療研修報告. 第 23 回日本渡航医学会学術集会. 口頭. 東京. 日本. (査読あ
り)
- 2) 中田えいみ, 杉本敬子. (2019). 国立台湾大学における外国人介護職者につ
いての医療研修報告. 第 3 回日本国際看護学会学術集会. 口頭. 東京. 日本.
(査読あり)
- 3) 中田えいみ, ラック・チャンクンティーン, 杉本敬子. 外国人の受診行動に関
する文献レビュー. (2019). 第 34 回日本国際医療学会学術大会. 三重. 日本.
(査読あり)
- 4) Eimi Nakada, Lu Yi Chen, Keiko Sugimoto. (2019). Foreign Workers in Taiwan: A
literature review. Tsukuba Conferemce 2019. Poster. Tsukuba. Japan. (査読な

し)

- 5) Eimi Nakada, Keiko Sugimoto. (2019). Roles and Functions of Medical Tourism Facilitators: A literature review. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars. Oral. Chiang Mai, Thailand. (査読あり)
- 6) Eimi Nakada, Saki Sato, Keiko Sugimoto. (2019). Difficulties and Measures on Nursing for Foreign Patient in Japan: a literature review. 6th World Academy of Nursing Science. Poster. Osaka. Japan. (査読あり)
- 7) Saki Sato, Eimi Nakada, Keiko Sugimoto. (2020). A literature review: Midwifery practice for foreign mothers in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. 29 February 2020. Osaka. Japan. (査読あり)

<競争的資金>

- 1) 平成 31 年度 筑波大学 キャンパス イン キャンパス短期派遣 (CiC 短期) 支援プログラム助成採択
- 2) 平成 31 年度 筑波大学 海外学会等参加支援プログラム助成採択
- 3) 平成 31 年度 筑波大学 語学研修・海外研修参加支援プログラム助成採択
- 4) 平成 31 年度 日本看護協会 小倉一春大学院教育 (国際看護) 奨学金採択
- 5) 平成 31 年度 日本看護学会 国際看護師学会東京大会記念奨学採択

<実践報告>

- 1) 平成 31 年度 筑波大学 人間総合科学研究科第 2 回 FD プログラムでの武者修行型学修派遣支援の選抜者による報告

看護科学専攻 博士前期課程 2 年 松本 知美

看護科学専攻 博士前期過程 1 年 城所 眞紀子

<社会活動>

総合学園ヒューマンアカデミー こども保育専攻 小児保健 非常勤講師

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 佐藤 沙紀

<学会発表>

- 1) Saki Sato, Eimi Nakada, Keiko Sugimoto. (2020). A literature review: Midwifery practice for foreign mothers in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan. Poster. (査読あり)
- 2) Eimi Nakada, Saki Sato, Keiko Sugimoto. (2019). Difficulties and Measures on Nursing for Foreign Patient in Japan: a literature review. 6th World Academy of Nursing Science. Osaka. Japan. Poster. (査読あり)

<競争的資金>

- 2) 平成31年度 海外留学支援事業 (はばたけ! 筑大生) 海外武者修行支援プログラム 採択

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 椎葉 奈子

<投稿論文>

- 1) 椎葉奈子, 杉本敬子. (2020). 茨城県内公的子育て支援事業に関するインターネット情報. 茨城県母性衛生学会誌 第38号(査読あり, 掲載前).

<学会発表>

- 1) 椎葉奈子, 杉本敬子. (2019). 公的子育て支援事業に関するインターネット情報. 第13回乳幼児保健学会学術集会. ポスター. 千葉. 日本. (査読あり).
- 2) 椎葉奈子, 杉本敬子. (2019). 日本における「ボンディング」の概念分析. 第22回日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS 全国学術集会. ポスター. 沖縄. 日本. (査読なし).
- 3) Nami Shiiba, Keiko Sugimoto. (2020). Trends of nursing research for foreign mothers in Japan: A literature review. N-nergizing Nursing Profession for NCD Challenges (N3 Nursing Conference). Poster. Bangkok. Thailand. (査読なし)
- 4) Nami Shiiba, Keiko Sugimoto. (2020). Research trend of postpartum care in Japan; A systematic review. The 6th International Nursing Research Conference

of World Academy of Nursing Science. Poster. Osaka. Japan. (査読あり)

<競争的資金>

1) 平成 31 年度海外留学支援事業「海外学会等参加支援プログラム」採択

<講演>

1) 多国籍社会での子育て「訪問型子育て支援活動報告会 ホームスタート UK 訪問報告」, つくば市役所 コミュニティ棟 会議室, 2020 年 2 月 9 日.

IV. 大学院生支援

1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	16 名	0 名	10 名
博士後期	8 名	1 名	0 名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2019 年 12 月末現在

		在校生数	休学者数
博士前期課程	1 年	16 名	0 名
	2 年	14 名	2 名
博士後期課程	1 年	7 名	0 名
	2 年	8 名	1 名
	3 年	16 名	7 名
その他			
研究生		1 名	
退学者		3 名	

2. 大学院生支援委員会の活動

1)新入生オリエンテーションの実施 4月9日(火)、14時00分～

2)新入生歓迎会の実施 4月9日(火)、17時00分頃～

3)研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議

申請のあった15名(延べ18件)について、看護科学専攻長及び大学院生支援委員で審議を行い、学内の他の支援金を受領した5名(延べ8件)を除く、10名に対して旅費支援を行った。

4)看護科学専攻における「学生支援対応チーム」^{注1)}としての活動

- a. 様々な問題を抱えた学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施:随時(できるだけ複数人体制での対応を心がけた)
- b. 休学および復学志望者への面接・相談:随時(大学院生支援委員長)
- c. 指導および就学困難なケースへの支援と面接等への同席:随時
- d. その他

5)その他の活動

- a. TA、TF、RAの時間配分
- b. 人間総合科学研究科長賞、看護科学専攻長賞候補者の推薦順位付け
令和2年2月時の看護科学専攻教育会議において、「看護科学専攻長賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者3名、後期課程修了者1名から、人間総合科学研究科長賞候補として前期、後期各1名ずつ、また、看護科学専攻長賞として前期2名を選出し、会議出席者より同意を得た。
- c. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信
- d. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員^{注2)}(大学院生支援委員長)としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーク

ードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。

(2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。

(3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。

・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。

(具体的には、 a)学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b)復学のための具体的な支援策の構築 c)留年等により担任が代わる場合には、新しい担任と連携を図る d)休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図るなど)

注2)平成28年4月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

3. 今後の課題

筑波大学は、平成23年度より学生に対して直接指導を行う指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学専攻においては看護科学専攻長と大学院生支援委員から構成されている。今後は、これまでの活動を維持し、さらにより一層大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要がある。具体的には学生への支援対応チームからの一斉メールの配信、大学院生支援委員相互の情報交換を活発化し、事例に対して委員が個別に対応することはできる限り避け、複数人の教員によってチームで対応する方針を再確認する。今度の課題として、異なる文化的背景をもち日本語でのコミュニケーションが十分とは言えない留学生が今後増加すると考えられるため、支援体制をどのように構築するか、議論する必要がある。

TA,TF,RA の時間配分について学生が学業を全うするのに障害とならないよう継続して

指導教員とともに調整を行う。

また、一昨年見直された申し合わせにより、各項目を点数化しより客観化された選考基準に基づいて、看護科学専攻長賞並びに人間総合科学研究科長賞を選出した。

大学院生支援委員会として、今後も大学院生が学業、人間関係等に悩みを抱えるも相談することを躊躇し、大学院生が学業や人間関係等の悩みを相談できず孤独に陥ることを予防するため、できるだけ迅速かつ適切な支援を今後も継続実施していく方針である。

V.社会貢献と国際交流

国際交流

令和元年度は、学生の海外派遣を積極的に推進することを中心に国際交流を行った。

第一に、学生に大学内の様々な奨学金への申請を奨励した。専攻 ICT 国際活動委員会主催による国際学会への抄録に関するセミナーを実施し、人間総合科学研究科武者修行型学修派遣支援助成、はばたけ筑大生のキャンパス イン キャンパス短期派遣 (CiC 短期) 支援プログラム助成、海外学会等参加支援プログラム助成、語学研修・海外研修参加支援プログラム助成などを利用して、海外での学術集会への参加を促した。

第二に、海外派遣により単位履修が可能な2つの科目を創設したことにより、海外での国際学会に参加し第一著者として発表した場合は「国際看護研究演習」の履修が、また専攻で承認された海外研修やインターンシップ等に参加した場合は「国際看護実践演習」の履修が可能となった。結果として、9名の学生が奨学金を得て、1月に開催された2つのタイでの国際学術集会に参加し研究発表を行い、6名の学生が海外研修やインターンシップに参加し、国際交流を図った。

今年度も、前年度に引き続き協定校である、ホーチミン市医科薬科大学(ベトナム)、モンゴル国立医科大学(モンゴル)、イリノイ大学シカゴ校(アメリカ)、聖アンソニー看護大学(アメリカ)、南インディアナ大学(アメリカ)、国立台湾大学(台湾)、国立成功大学(台湾)との交流を盛んに行い、学生・教員ともに非常に多くの刺激を受けた。文化の大きく異なる国々の看護について考える貴重な機会が得られ、看護教育・研究を推進する上での

重要な示唆を得た。次年度も継続して有意義な国際活動を展開していきたい。